

p122 「一問一答」

1. 抗ヒスタミン成分を配合した催眠鎮静薬（睡眠改善薬）は、慢性的な不眠症状がある人や不眠症の診断を受けた人を対象としたものではない。
2. ジフェンヒドラミン塩酸塩を含む睡眠改善薬は、妊娠中の人でも使用できる。
3. ブロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることがある。
4. 眠気防止薬に含まれるカフェインの量は、1回 200mg、1日 1,000mg が上限である。
5. カフェインには胃酸分泌を亢進させる作用があるため、カフェインを主薬とする眠気防止薬は、胃潰瘍や胃酸過多の人は服用を避けることとされている。
6. カフェインには排尿を抑える作用があるため、カフェインを主薬とする眠気防止薬は、排尿困難の症状のある人は服用を避けることとされている。
7. 吸収されて循環血液中に移行したカフェインの一部は、血液-胎盤関門を通過して胎児に到達する。
8. 小児用の眠気防止薬はない。

【解答】

1. ○ 抗ヒスタミン成分を配合した催眠鎮静薬（睡眠改善薬）は、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い等）を対象としたもの。
2. × 妊娠に伴う睡眠障害は適応対象外。
3. ○
4. × 眠気防止薬に含まれるカフェインの量は1回 200mg、1日 500mg が上限とされている。
5. ○
6. × カフェインには利尿作用があり、尿量の増加をもたらす。
7. ○
8. ○